

公益社団法人日本ビリヤード協会平成 30 年度事業報告

1 組織

競技スポーツを取りまとめる団体として指導員制度・審判員制度・資格認定制度の明文化が必要となります。30 年度は特に指導員・審判員をはじめ JSC の指導のもと、制度構築を進めて参りました。同時に、健全なスポーツ団体として必須の要件となる規程の整備も行って参りました。いずれも、解決すべき難題が山積している状況ですが、着実に歩を進めなくてはなりません。

指導員・審判員制度の策定と稼働に向けて、各種目別団体と連携し、調整を進めました。また、既存の規程の見直しを行い、理事会運営規程・スポンサー選定に関する規程・寄付金規程の新規 3 規程の整備を終えました。

2 普及事業

・普及活動全般

シニア世代へアピール要素としては、適切な運動量・頭を使うことによる認知症防止・コミュニケーションツールとしての活用などが挙げられます。現在増えている高級高齢者施設からの問い合わせもあり、これからの高齢化社会において見込まれる需要に応える必要があります。講師派遣依頼の要請などには、ぜひ対応をお願いします。また、一般公共高齢者施設には、全撞工からの協力を頂いて、テーブル・用具の貸与・贈呈を続けております。

ジュニア世代への普及も重要です。児童館などからのオファーは極力受けるようにして下さい。地域に密着した普及事業は、基本は支部として積極的に対応して頂きたい事業です。ボランティアが度重なり負担がかかるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助は検討させていただきます。なお、協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができます。

ミニテーブル活用書が作成済です。事務局にお問い合わせください。

本部では、例年通りスポーツフェスタに参加し、キッズ対象の普及事業を行ないました。また、キッズのみならず、高齢者や障がい者を対象に、将来的な公認化を前提とした補助活動を行っています。

普及事業の拡充を目標に、2019 年度からの C S 年会費改定に踏み切りました。今後の収支状況をみて、具体的な事業の拡充に入ります。

・学校対抗・学生選手権

学生層への普及を促し、競技種目としての認識を高める目的で学校対抗選手権と全日本学生選手権を継続しています。

全日本学生選手権は全日本選手権との同時開催になって 2 年目になりました。今後、全国規模で参加者数を増すよう工夫し、全日本のタイトルに相応しい試合形態を整える必要があります。学生層への普及のため、学校対抗選手権も継続しています。今年も 16 校 32 人が参加しました。学生自身による主体的な運営が可能になる状況を創りあげることが目標としています。

3 強化事業

・ジュニア

数年前までは日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかかなり充実していましたが、その充実したメンバーが卒業した後の世代交代に成功しているとは言えません。全国的に層が薄くなっている現状で、タレント発掘と選手の育成強化は急務ですが、店舗単位・支部単位での協力が無くして成立しません。ジュニア・学生層への普及状況は、組織の評価に繋がりがやすく、業界の発展とも密接に関わってきます。

例年通りアジア選手権と世界選手権に派遣を行なっています。現在の日本のレベルは世界で結果を出せる状態にはありません。繰り返しになりますが、選手層拡充の対策をする必要があります。

4 国内大会事業

・国体記念大会・国体デモスポ競技

国体記念大会を茨城県で開催しました。デモスポは福井・茨城と不参加ですが、鹿児島から参加を再開します。

国体関連事業の継続開催に備えて、国体デモスポ競技・国体記念大会の開催手引き・開催マニュアルと県協会設立のガイドを作成してあります。国体対策委員会を設置して県単位での国体関連事業の相談受付窓口とし、サポートも行なっています。

・国内大会一般

カレンダー掲載の開催トーナメントスケジュールに抛り実施されています。

例年通りの開催が行なわれました。

5 選手派遣事業

・海外大会選手派遣

例年の国際大会への選手派遣を行っています。

女子 3C 世界選手権、肥田緒里恵プロは準優勝でした。

6 各種委員会

・アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして日本ビリヤード協会本部で構成されています。助成を受けるために必要な申請も行っています。

4 大会で 8 検体の検査を行いました。

ドーピングに関する助成の仕組みが変わるため、日本ビリヤード協会は日本スポーツフェアネス推進機構に令和元年度から加入することとなりました。

・CS 委員会

従来の CS 委員会に代わり、今後は理事会と事務局の連携で CS 関連の業務を執り行います。

年会費の改定を実施いたしました。増収分による具体的な事業拡充施策については、今後の収支状況をみながら、理事会に於いて慎重に検討されることになっています。

・協力金委員会

協力金の管理と運用を管轄しています。

委員の構成が代わり、業務の引き継ぎを行なわれていますが、業務は正常に機能しています。

・ルールブック委員会

各団体の協力を得て適時ルールの改正を行ないます。必要に応じて HP に掲載しますが、製本予定はありません。

ポケットのルールに軽微な変更がありました。

・普及指導委員会

学校・児童館・高齢者施設にビリヤードを紹介する活動を行なっています。

スポーツフェスタにおいて、普及活動を主導しました。